（様式1）

学校番号	13	学校名	茨城県立小瀬高等学校

令和8年度道徳教育全体計画

諸法規

・憲法
・教育基本法
・学校教育法
・県、市の推進施策
・学校教育指導方針

校訓

自律　清純　研学　勤労　敬和

生徒の実態

本校の生徒は連携を行っている中学校からの入学生が6割以上を占め、かつ地元出身者が多いため、素直で純朴である。また挨拶や礼儀作法が身についており、真面目な者が多い。しかし、生徒数が少なく、勉学に対する意識もやや低いため、現状に満足しようとする傾向が強い。そのため、競争心や切磋琢磨するといった感覚が低いことが課題としてあげられる。

学校の教育目標

・授業力の向上
・体験的・探究的な学びの充実
・希望進路の実現
・全ての生徒に居場所のある学校づくり
・基礎学力の向上
・生徒の主体性の育成
・生徒の社会参画意識の醸成
・地域の小中学校との連携の推進

保護者の願い

・学力の向上
・希望進路への実現
・社会への順応力の育成
・豊かな心の育成
・健康、安全

道徳教育重点目標

目標：生徒一人一人が道徳的価値や人間としての在り方生き方に関する自覚を深め、豊かな心を育て、未来に向けて人生や社会を切り拓いていこうとする道徳的実践力を高める。
1　自主自立の精神を高め、正しく物事を判断し、実践できる生徒の育成。
2　礼儀の意味を理解し、時と場に応じた適切な言動が取れる言動がとれる生徒の育成。
3　人々の立場を尊重し、感謝と思いやりの心を持って接することができる生徒の育成。
4　生命の尊さを深く理解し、かけがえのない自他の生命を尊重できる生徒の育成。

地域の実態

・過疎化
・少子高齢化
・交通不便地区
・学校運営に協力的

各教科・科目

国語	国語を尊重する態度を養い、望ましい人間関係づくりや人間としての生き方について考える。
地歴	日本および世界の歴史と生活・文化の地域的特色を理解し、国際社会に対応できる資質を育てる。
数学	数理的思考を学ぶことにより様々な局面において常に真理を追究するという姿勢を身につける。
理科	自然に対する関心や探求心を高め、科学的な思考力・自然観を育成する。
保体	運動を通して健康と集団生活に必要なルールやマナーを守る態度を育てる。
芸術	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし豊かな情操を養う。
外国語	言語や文化に対する理解、実践的コミュニケーションの能力の育成を通して、国際的視野を拡げる。
家庭	家族・家庭の意義について理解させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する態度を育てる。
情報	情報に関する知識を深め社会的マナーやモラルを守ることの大切さを学ぶ。
総合的な探究の時間	人としての在り方・生き方としての自分の進路を考え、働く楽しさや厳しさを学んだ上で、進路の選択・決定に主体的に取り組み、希望進路の実現のため努力することができるようにする。
専門	ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身につけさせ、ビジネスマナーなど倫理観の育成に努める。

特別活動

ホームルーム活動

・学級の一員として集団生活の適応を図りながら、自己の生き方を探って行く。

・各学年において道徳プラスを活用し、豊かな心の育成に取り組むことに努める。

〇生徒会活動
学校生活の充実を図るため、自主的に運営される生徒会活動を通して、道徳教育の基礎を養う。

〇学校行事
体験的な活動などの各種の学校行事を通して、道徳教育の基礎を養う。

公民科

公共

・伝統と文化の学習を通して、郷土の伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度を培う。
・規範の意義や政治参加、労働者の権利の学習を通して、遵法精神や公徳心を養う。

・現代社会の諸相を幅広く理解し、人間としての在り方、生き方、倫理観を育む。

・現代の諸課題の探究を通して、心理の探究や創造について考える。

生徒指導

・礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。
・友情の尊さを理解して心から信頼できる友人をもち、互いに励まし合い、高め合う。
・法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。
・正義を重んじ、誰に対しても公正・公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。

家庭との連携

〇PTA活動
・総会時に学年単位で懇談会を実施し、協力体制を密にし、指導に役立てている。
・生徒支援委員会、研修委員会、広報委員会のPTA活動を通して、教員と保護者との連携を図っている。
・文化祭への積極的な参加を呼びかけ、生徒と協力して催しを実施することで、交流を深めている。
〇保護者面談
保護者面談を実施し、生徒の実態を把握し、生徒指導や学級経営に役立てている。
〇学校公開
授業を公開し、生徒の授業の様子を見ていただき、その感想を、各種指導に活かしている。

地域社会との連携

・市のクリーン作戦に参加し、社会の一員であることの自覚と地域との交流を深める。
・交通安全運動に参加し、地域住民交通安全を呼びかけるとともに、自らも交通法規・マナー遵守の重要性を自覚する。
・探究のため地域訪問を行い、歴史・文化の理解を深める。